

7

かい
階
きんだい げんだい
(近代・現代)



だいおおさか じだい ある 大大阪の時代を歩いてみよう!



おおさかほうせきさんげんやこうじょう
大阪紡績三軒家工場
めいじ はじ おおさか こくえいこうじょう ぞうへいきよく
明治の初め大阪に2つの国営工場—造幣局
とおおさかほうへいこうじょう つく
と大阪砲兵工廠—が作られました。しかし、
おおさか こうぎょうが もっとすすみ 民間の
ぼうせきがいしゃ おおさかほうせき つづ おお
紡績会社でした。大阪紡績に続いて多くの
ぼうせきがいしゃ おおさか さんぎょうはってん
紡績会社ができ、大阪は産業発展におい
ぜんこくてき ちゅうしんち
て全国的な中心地となりました。



じだい 時代のようす

かい きんだい げんだい
この階では、近代・現代の
おおさか てんじ
大阪について展示してい
ます。

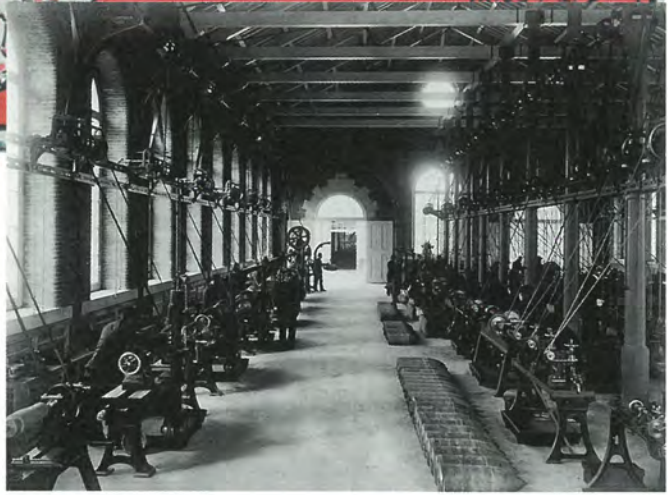
めいじじだい こうじょう つぎつぎ
明治時代には、工場が次々
につく こうぎょうがすす
に作られて、工業化が進み
ました。そして、大正時代
たいしょうじだい
には工業生産日本一の都市
こうぎょうせいさん にほんいち とし
になり「煙の都」と呼ばれ
けむり みやこ よ
ました。でも、工場の煙に
ひとびと せいかつ くる
よって、人々の生活は苦し
められました。

また、じんこう ふ たいしょう
人口も増え、大正
じだい お し めんせき
時代の終わりには市の面積
かくだい だいおおさか う
が拡大して「大大阪」が生
けむり ひがい
まれました。煙による被害
こうがいもんだい
などの公害問題がありまし
あたら とし ぶんか
たが、新しい都市の文化も
つく
作られました。



なにわかわさきこうじょう
浪花川崎鑄造場の図
めいじ ねん ねん ぞうへいりょう かいぎょう
明治4年(1871年)造幣寮として開業
した造幣局は、お金を作るために化学薬品
の生産をおこな がおおさか かがく
工業の発展に大きな役割をはたしたのです。

おおさかほうへいこうじょう
大阪砲兵工廠
めいじ ねん ねん おおさかじょうない おおさかほうへいこうじょう
明治3年(1870年)大阪城内にたてられた大阪砲兵工廠
では、たいほう だんがん などが作られました。また橋や水道管も
つくられ、おおさか きんぞく きかいこうじょう はってん
作られ、大阪の金属、機械工業の発展のもとになりました。

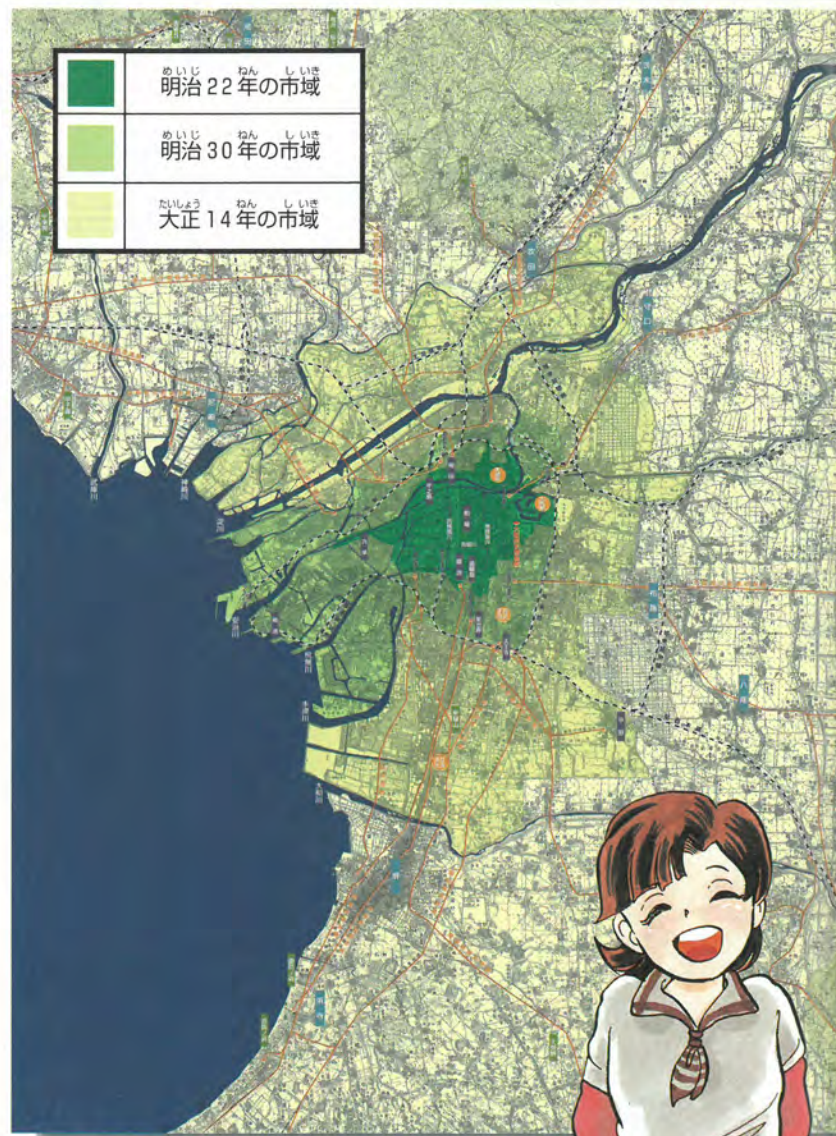


みどうすじ 御堂筋と ちかてつ 地下鉄

大正14年(1925年)、大阪市は面積を拡大して、東京をぬいて全国第一位の都市となりました。「大大阪」の誕生です。

大大阪時代に作られた大阪の地下鉄は主に市内の交通のこみぐあいをゆるやかにする目的で作られました。昭和8年(1933年)に梅田-心斎橋間が開通しました。

その後、難波、天王寺までと、次々にのばされました。御堂筋はもともと、幅約5.4mの道でした。これを幅43.6mの道路にすることになりましたが、資金や用地の問題で計画通りには進まず、昭和12年(1937年)に、ようやく開通しました。イチョウ、きれいな街灯、沿道の建物の高さがそろえられるなど、大きくて美しい道路になったのです。



▲ 2回目の市域拡大後の大阪市



▲ 当時の地下鉄のようすの模型



▲ 御堂筋のできる前



▲ 御堂筋ができた後

関一市長(1873~1935年)

大阪を「住み心地のよい都市」とするために力をつくしました。関市長が活躍していたころの大阪は、貧しい人々のための施設がたくさんつくられ地下鉄や御堂筋などの都市作りがさかんに行われるようになっていました。

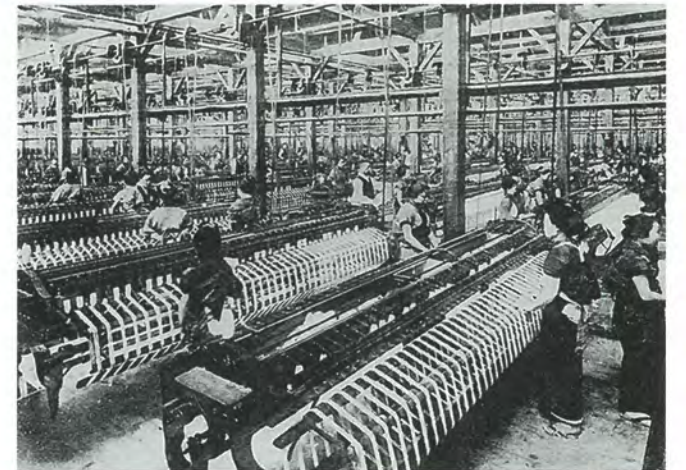


関市長のことをくわしく調べてみようかな?



さまざまな問題

大阪紡績株式会社は、明治19年(1886年)日本の工場です。初めて、工場内に電灯をつけ、24時間仕事をできるようになりました。しかし働く人にとっては大変な苦勞にもなりました。



▲ 大阪紡績で働く女性

明治30年代から、大阪では工場から出る煙による被害が問題とされるようになり、たくさんの煙突から出る煙が人々の生活を苦しめるようになりました。



▲ 当時の大阪市内の煙突と煙

げきじょう まち 劇場の町

どうとんぼり 道頓堀

歌舞伎の伝統を守りながら、新派・喜劇などの新しい演劇や映画でにぎわう道頓堀は「芝居の町」と呼ばれていました。



▲昭和初期の道頓堀

昭和に入ると芝居茶屋*が減り、カフェ*が増えてけしきは変わりましたが、観光地としてもにぎわいました。

せんいちまえ 千日前

明治以降に発展した新しい歓楽街である千日前は「大衆ごらくの町」



▲昭和初期の千日前

※芝居茶屋 劇場に出入りして、客の案内・休憩・食事などの世話をする施設

※カフェー 洋酒類やコーヒーなどをたずねる飲食店



どんな芝居をしてい
たんだらう？

▲角座のファサード (正面入口)

昭和15年の道頓堀の角座前。高くつきで出たやぐらや、まねき看板、絵看板、通りをわたる旗などが独特の雰囲気を作っていました。

こうした看板類などを見ながら道頓堀の町を楽しむことを「道ぶら」ともいいました。



でした。落語・浪花ぶし・女義太夫などの寄席や映画館が多く、道頓堀にくらべると、安い値段で楽しむことができました。昭和になると、歌舞伎の大劇場ができ、人気役者の初代中村鴈治郎が活躍しました。

かみがたけいのう 上方芸能

明治以降、千日前・新世界などの新しい繁華街が誕生し、松竹や吉本など興行会社が活やくするなど、興行の世界にも大きな変化が occurred.

道頓堀を中心にした大阪の芸能文化は、歌舞伎や文楽、落語などが伝統をひきつぎました。そのいっぽうで、新派などの新しい演劇や漫才・少女歌劇などの新しい芸能も登場し、さらにはなやかになりました。



▲初代中村鴈治郎



▲曾我廼家五郎は、喜劇という新しい演劇の分野を開きました。



▲楽屋で使う鏡台

おおさか まつり 大阪の祭

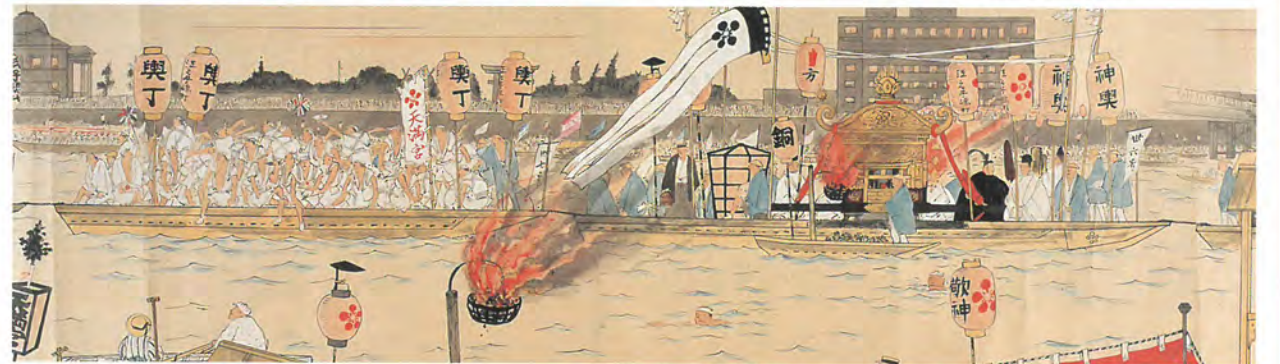
日本三大祭りに数えられる大阪天満宮 (北区) の天神祭は現在も続いています。



ほかにどんなお祭りがあるのか調べてみよう！



▲現在の天神祭



▲大正10年ごろの天神祭のようす

ひとびと 人々の 暮らし

まちこうば しごと 町工場の仕事と暮らし



▲ 町工場ではたらくひと

大正から昭和のはじめにかけて大阪の町の中には、約2万もの小さな工場（働く人が5人より少ない）が、さまざまなものを作っていました。この工場では、いろんな材料を打ち抜くための工具「抜きたがね」を作っていました。この抜きたがねをつかってゴム・紙・革・鉄板などからパッキングやレットルなどを作り出していました。

こうがいじゅうたく 郊外住宅の暮らし

明治の終わりから大正にかけて、工業がさかんになり空が煙におおわれ住みにくくなった市内中心部から郊外に引っ越す人々が増えました。



▲ 郊外住宅のようす

おおさかじょう よみがえった大阪城

初代大坂城天守閣は豊臣秀吉によって13年（1585年）に作られました。大坂夏の陣でそのほとんどを焼失しました。

元和5年（1619年）に秀吉の時代の本丸を埋め立て、その上に徳川時代の本丸を作りました。しかし、寛文5年（1665年）天守閣は落雷にあつて焼失。それ以後270年近く天守閣は再建されませんでした。

その後、市民の寄付金をもとに、昭和6年（1931年）大阪城公園に天守閣が再建されました。鉄骨やコンクリートを使って建設されたことも注目されました。大手門、櫓、大きな石を積み上げた見事な石垣などは江戸時代のもので、



▲ 建設中の大阪城天守閣
昭和6年（1931年）

まち しぞう 町の地蔵

大阪市内の町のロージ（路地）などには、町の人々がまつた地蔵がたくさんあります。祠は、むかしから、人々の願いや祈りを受け止めてきました。



▲ 水呑地蔵（中央区）



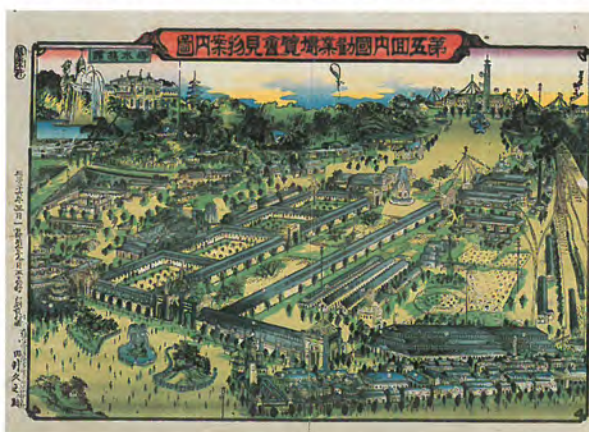
▲ 昭和初期の公衆電話

こうしゅうでんわ 公衆電話

昭和5年度末、大阪市内には282台の公衆電話が置かれました。

はくらんかい おおさか 博覧会と大阪

商工業のさかんな大阪は、明治から平成の今まで、多くの博覧会を開いてきました。明治の第五回内国勧業博覧会・昭和の日本万国博覧会・平成の国際花と緑の博覧会など多くの観覧者を大阪に集めました。



▲ 第五回内国勧業博覧会見物案内図
明治36年（1903年）



▲ 日本万国博覧会の会場 昭和45年（1970年）

りゅうこう まち
流行の町
おおさか
大阪

りゅうこう さいせんたん しん
流行の最先端「心ぶら」



おおさか ちゅうしん ぶ なんぼく しんさい
大阪の中心部を南北にのびる心斎
橋筋は東京の銀座とならんで日本を
だいひょう めいてんがい
代表する名店街でした。

とうきょう ぎんざ
東京の銀座をウィンドーショッピ
ングしながら歩くことは「銀ぶら」
と呼ばれていました。それにたいし
て、大阪の心斎橋筋を歩くことを
「心ぶら」と呼びました。

しんさいばしすじ こどもふくそう
心斎橋筋にあったヨネツ子供服装
店は、当時、一番新しいショーウイ
ンドーでした。マネキンはフランス
製で、おしゃれな子ども服がたくさ
んならんでいて、多くの人のあこが



▲昭和10年ころのヨネツ子供服装店

れでもありました。
とうじ ひとびと
当時のオシャレな人々はモダン
ボーイ・モダンガールと呼ばれました。
しんさいばしすじ いま おお
心斎橋筋は、むかしも今も、多ぜ
いの、オシャレな人が集まる、流行
の最先端の場所です。

ファッションは時代によって
ずいぶん変わるんだなあ。



▲昭和7年ころの心斎橋筋



▲現在の心斎橋筋

あか ひあお ひ えびすばし こうこくどう
赤い灯青い灯 戎橋の広告塔

しょうわ どうとんぼり こうしん
昭和のはじめ「道頓堀行進
曲」という歌が流行しました。
あか ひあお ひ どうとんぼり かわ
「♪赤い灯青い灯 道頓堀の川も
にあつまる 恋の灯に…」
どうとんぼり ふきん よる あか
道頓堀付近は夜になると、赤
や青の色電球が光る町でした。
いま よる あか ひ
今も、夜になると、赤い灯や
あお ひ どうとんぼり て
青い灯が、道頓堀を照らしてい
ます。



←当時の道頓堀付近



←現在の道頓堀付近



しよみん だいどころ こうせついちば
庶民の台所「公設市場」

おおさか し たいしょう ねん
大阪市は、大正7年（1918
ねん ぜんこく
年）に全国で、はじめて、市が
せっち いちば つく
設置する市場を作りました。その
いちば こうせついちば い
市場を「公設市場」と言います。
たいしょうじだい おわ ごろ
大正時代の終り頃には、53の
こうせついちば
公設市場ができました。
いちば しみん だいどころ
市場では市民の台所として、
せいかつ
生活にかかせない、いろいろなも
のを売っていました。



どうとんぼり
道頓堀はいつできたの？

なりやすどうとん やすいどうぼく けいちよう ねん
成安道頓・安井道トなどが慶長17年
(1612年)、自然の川を整備しはじめ、
げんなん ねん しぜん かわ せいび
元和元年（1615年）に完成し、今のよ
うな堀にしました。

▶現在の道頓堀川

